

子どもの支援に関わる大人が、性暴力について正しく理解し、適切な支援をすることは、性被害を受けた子どもの回復を支えていくうえで大切なことです。子どもと保護者に対する初期対応が非常に重要です。

Q1 性暴力とはどのようなものですか？ 子ども同士の性的な遊びやふつうの性行為と、どう違うのですか？

本人が望んでおらず、断りにくい状況でなされた性的な言動は性暴力です。チカンやのぞき、性器露出、無理やり体を触ったり、触らせる、キスや性行動を求めたり、性的な画像を見せたり撮ったりすることなどがあり、加害者は見知らぬ人だけではなく、知り合いや家族など身近な人である場合も多くあります。

幼児がお互いの性器に関心を持つような自然な性的な遊びとは異なり、性暴力は一方的で、相手の同意や理解を伴っていないものです。被害者が加害者の要求に「いいよ」と答えたり、拒否しなかったとしても、怖かったり、事態がよくわからなくて応じただけであれば、これは同意のある性行為ではなく性暴力といえます。

Q2 子どもに性被害を打ち明けられたら、まず、何をしたらよいですか？

性被害を受けた子どもは混乱していたり、恥ずかしいと感じているので、まずは「よく話してくれたね」「話してくれてありがとう」と伝えましょう。加害者に口止めされたり脅されていて不安を感じていることもあるので、子どもの安心感を高めることが大切です。「どうしてついでいったの！」など叱らないで下さい。

性に関する内容であるために大人が動揺してしまうことがあるかもしれませんが、これは暴力や犯罪の問題です。落ち着いて、子どもに必要なサポートを考えていくことが求められます。性器などに外傷があったり、性感染症や妊娠の可能性がある場合は、医療機関に連れていきます。警察へ被害届を出すことも検討します。家庭内や施設内で性暴力が起きた場合は、子どもの安全を優先し、再被害にあわないための保護や分離などの危機介入を行わなければなりません。安全な生活環境づくりとケアの両方を進めていく必要があります。

Q3 性被害を受けた子どもへの影響は、どのように判断すればよいですか？

アセスメントでは、身体的な外傷や病気、妊娠の可能性についての確認のほか、心理面への影響を理解するように努めます。年少の子どもであれば、保護者に生活場面で見られる子どもの変化や気になりな点を聞きます。可能であれば、子ども本人に生活の様子を尋ねます。一般的には、性暴力やその後のさまざまなストレスによって、子どもの感情が不安定になったり、幼児返り（退行）が起こったり、落ちつきのない行動がみられたりします。不眠や食欲不振、外出不安なども起こりやすくなり、それらの症状により日常生活に支障をきたすこともあります。自分の性器を頻繁に触ったり、年齢にそぐわない性行動（性化行動）をするようになることもあります。

また、子どもの力や支えてくれる人なども確認します。子ども自身のもつ回復力（レジリエンス）を活かせるような働きかけが有効です。必要であれば、より専門的な支援機関を紹介します。

Q4 子どもに関わることで、かえって傷つけてしまうのではないですか？ そっとしておいては？

被害後に目立った影響が見られなかったり、子どもや保護者が性被害について話そうとしないなどの理由で、子どもへのサポートが見送られてしまうことがあります。しかし、性暴力が発覚したのに何も対応しないと、被害を受けた子どもが「何もしてもらえなかった」と感じたり、「私が悪かったんだ」という自責感を持ったまま成長することになってしまいます。身体的にも心理的にも被害の影響が深刻になってしまいかねません。

直接被害を受けた場合だけでなく、身近で起きた性暴力を目撃した子どもも、混乱して不安を感じています。性暴力をふるうという間違った行動について、大人からきちんと説明や対応を受けられず、ケアもなされないと、他の子どもに対しても、自分が見たり、されたのと同じような行動をとってしまうことがあります。子どもが性加害や問題行動に至らないためにも、性被害が発覚したあとの初期対応が非常に重要なのです。

子どもの様子や希望によっては、治療的なケアをせずに、しばらく様子を見守ることもあります。その場合も、「あなたが悪いのではない」という説明と「何かあったら話してほしい」ということを伝えておきます。

Q5 保護者に対して、何をしたらよいですか？

性被害を受けた子どもの保護者の多くは、「まさか！」という驚きや信じがたい気持ち、「どうしていいかわからない」という動揺や「どうしてこんなことに」という悲しみや怒りの気持ちを抱いています。保護者の気持ちをよく理解し、共感しながら、性暴力について説明し、「子どもを責めないこと」と「適切なケアがなされれば回復する」ことを伝えます。子どもの回復には保護者が大きな役割を果たすことを強調し、子どもへの具体的な関わり方について話し合うとよいでしょう。こうした説明を心理教育といいます。

保護者が落ち着き、生活の場が安定することは、子どもの回復を支える基盤となります。